会議概要

1	審議会　　令和８年度　第２回　安曇野市農業農村振興計画推進委員会
2	日　時　　令和８年７月 29 日（水）午後１時 30 分～午後３時 30 分
3	会　場　　本庁舎４階　大会議室
4	出席者　　佐原委員長、小山田副委員長、降簱委員、東本委員、井藤委員、髙橋委員、安田委員、米山委員、帯刀委員、唐澤委員、吉澤委員、柳原委員、阿部委員、藤本委員、矢野委員、細萱委員（欠席者　松田委員、北澤委員、山口委員、北村委員、小林委員、内川委員）
5	市側出席者　大月農林部長、高山農政課長、麻田耕地林務課長、その他農林部および農業委員会所属の事務担当係長等
6	公開・非公開の別　　公開
8	傍聴人　０人　　記者　０人
9	会議概要作成年月日　　令和８年７月 30 日（木）

協　議　事　項　等

１．会議概要

（１）開会

（２）委員長あいさつ

（３）協議

（４）報告事項

以下、会議の特記事項について記載する。

２．協議

（※以下、発言者を　●：委員（委員長含む。）、□：事務局　で表記）

（１）　令和７年度農業農村振興計画の点検評価結果報告書の確認について

（事務局から、資料１に基づき、令和７年度農業農村振興計画の点検評価結果報告書について説明）

（以下、委員からの意見等）

●認定農業者が減少しているとの説明があったが、昨年度の新規就農者はどの程度いたのか。

□昨年度の新規就農者は５人である。

●認定農業者は高齢化により更新しない者が増えることが想定される。農地の流動化については、今後、地域計画に基づき集積を進める方向でよいか。

□地域計画における 10 年後の目指す姿に沿って、担い手への農地集積を進めていく。農政課とも連携して取り組む。

＜令和７年度農業農村振興計画の点検評価結果報告書については、議案のとおり市長へ報告することとして決定された。＞

（2）　第１回安曇野市農業農村振興計画推進委員会の意見反映について

（事務局から、資料２、資料３、資料４に基づき、・第４次安曇野市農業農村振興基本計画の施策体系案および第３次計画進捗管理シート結果の第４次計画策定への反映について説明）

（以下、委員からの意見等）
資料２について
＜質疑・意見等なし＞

資料３について
●新規就農者の里親制度について、りんご以外にどのような作物で活用されているのか。また、里親制度の人数はどの程度か。
□里親数は昨年度で 25 人である。内訳は把握していない。

●自身も里親であるが、梓川周辺では夏秋いちごやきゅうりなどのハウスものの里親をしていると聞く。安曇野市では果樹のりんごやなしが多く、野菜はあまり聞かない。
●安曇野市内ではセロリで里親を受けている事例を聞いている。ただし、家族経営が主体であり、独立就農の受け皿としては限られる。

●気候変動に対応した高温障害に強い米の品種について、導入状況を確認したい。
●「虹のきらめき」は全国的に増えている品種であり、導入を進めている。単価は従来品種より低い面があるが、収量で補える特性がある。「ZR1」は試験的に進められている。

●６次産業化に向けた記載があるが、安曇野市内には加工施設が不足している。個人農業者が加工品を作る場合、利用しやすい加工場があると多方面から取組が広がるのではないか。
●現状では穂高、堀金、豊科等に小規模（個人が持ち込み、個人で加工する）な加工場はあるが、販売許可や管理体制の課題がある。管理人がいる所はきれいに使用されているが、いない所は管理が行き届かないという事もある。市として要望があるのであれば検討してもよいが、大規模施設を整備しても採算や管理の面で難しいのではないか。
□合併前から各地域に加工場があり、現在も維持修繕を行いながら活用している。増設や統廃合は容易ではなく、大規模設備への税金投入は管理面や採算面から慎重に判断する必要がある。第４次計画では継続課題として位置づけ、利用状況や地域ニーズを踏まえて検討する。

●南安曇農業高等学校では加工品等を販売しているが、販売施設や保健所等への手続きはどのような扱いか。
●学校内に常設の販売施設はなく、イベント等で販売している。他県には小規模店舗を持つ農業高校もあるが、県内では同様の例は把握していない。ワインについては試験醸造の扱いであり、販売できる範囲に制約がある。イオン豊科店に恒常的に販売できないかという相談もあるので、協力できるか検討していきたい。

□毎年９月に東京都新宿区で安曇野市マルシェを開催しており、南安曇農業高等学校と連携した商品開発や販売機会の創出に取り組んでいる。市内事業者と高校生が連携し、農産物を使った商品案が採用・商品化につながっている。

●既存生産者の子どもが県外から戻り、農業を継ぐことも人材育成という観点で重要である。新規就農だけでなく、親元就農や事業承継の視点も盛り込んでほしい。

●施策振り返りシートにおける「承継」と「継承」の語句の整理が必要である。
□用語の使い分けを確認し、シートを整理する。

●施策振り返りシートP3「第４次計画にて求められるアクション」の項目の「自然災害等不測事態に備える制度の拡充」「6次産業化による収益力向上」はこの選択項目に入れるのは妥当ではないと考えるがいかがか。
□内容を整理したい。

●食育・食農教育について、第４次計画でも継続するとされているが、小中学生の反応はどうか。
□出前講座等における小中学生の反応は好感触である。伝統野菜などへの認知は十分でないため、引き続き食育・食農教育を進める。

●施策振り返りシートでは「通販サイト出展支援を含むマルシェ等出展補助の縮小・廃止」とある一方、イベントやマルシェは引き続き積極的に行うとされており、相反するように見える。
□コロナ禍におけるイベント中止等を受けた出展補助は縮小・廃止する趣旨である。一方、イベントやマルシェそのものは引き続き開催し、参加を促していく。販路拡大の自立化を進める考えである。

資料４について
●「農業の歴史によって形成された生物多様性とランドスケープ」という表現について、歴史という語が広すぎるとの意見もあったが、世界農業遺産等の考え方を踏まえるなら、このままでもよいのではないか。
●「地域内の大型施設」という文言は除外する。
＜上記２点は他に意見がなかったので、その方向で進めると決定した。＞

３．報告事項

（１）　第４次安曇野市農業農村振興基本計画策定に伴う追加アンケートについて

（事務局から、資料５、資料６に基づき、追加で行うアンケートについて説明）

（以下、委員からの意見等）

●ＪＡでふれあい農園を実施しており、今年は 20 を超える家族から申し込みがあった。食農教育で米・野菜・果樹のコースがそれぞれあるが、毎年 100 家族程度の申し込みがあり、受け入れきれず断っている状況。

●小学校では学級園の形で畑を活用している例がある。特別支援学級で授業の一環として畑に取り組んでいる学校もある。収穫物を参観日に保護者に買ってもらうという活動もある。

●夏場の農作業は非常に暑い。農作業時の熱中症対策について、現場ではどのような対応を行っているか知りたい。

●自社では空調服の貸与、休憩場所の確保、水分補給、作業中の連絡体制などにより熱中症対策を行っている。ただし、対策の確立は道半ばである。

●りんごは太陽があたると傷みやすいので、今後は管理者に対する補助等を考えてもらいたい。

●朝方出勤や夕方出勤など、暑い時間帯を避ける勤務形態を取り入れている。

（４）　地下水の影響についての説明

（環境・ゼロカーボン推進課から、資料「安曇野市の地下水量と揚水の関係について」に基づき、地下水の影響について説明）

（以下、委員からの意見等）

●揚水量の区分には下水用も入るのか。

□上水道のみ。下水用は入っていない。

●揚水量の区分にある事業用、水道用、養魚用、農業用は、いずれも地下水を使っているものという理解でよいか。

□その理解で相違ない。農業用ではハウス栽培等で地下水が使われている。

●地下水位の現状を示すグラフについて、地下水位の年月の目盛りが見当たらないが、降水量の年月の目盛りと同一なのか。

□同一である。

●工業用水の揚水により地下水位が下がっているようにも見えるが、どのように考えているか。

□調査の結果、地下水位低下の要因は、アウトプットである揚水量よりも、インプットである浸透量の減少の影響が大きいことが分かってきた。浸透量の減少には、水田利用が少なくなったことと農業用水路がコンクリートになったことが要因と考えられる。

●説明を聞くと土地利用のグラフがあったほうが分かりやすい。

□最終ページに平面図にて土地利用の分布図を掲載しているが、グラフでも表現できるか検討したい。

４．その他

（事務局）

・次回会議は令和８年８月 26 日 13 時 30 分から開催予定